

第24回 奈良県営競輪あり方検討委員会 議事録

1. 開催日時：令和6年7月12日（金）18：00～19：05

2. 開催場所：奈良県庁主棟5階 第1会議室

3. 出席者

【出席委員（五十音順 敬称略）】

松岡委員長（WEB出席）、石川委員、石黒委員、上垣委員

※西川委員は欠席

【事務局】産業部 森本部長 奈良次長

経営支援課 吉村課長 間林課長補佐

競輪場 山崎場長 池田次長

ほか4名

4. 公開・非公開の別

公開

5. 議題

I 令和5年度の決算状況について

II 令和6年度の取組について

III その他

<吉村課長>

それでは定刻となりましたので、ただ今より第24回奈良県営競輪あり方検討委員会を開催させていただきます。

委員の皆様方には、大変お忙しいところ、御参集いただきましてありがとうございます。

私は事務局を担当しております、奈良県経営支援課長の吉村でございます。よろしく願いいたします。

本委員会は、平成24年9月に第1回目を開催した後、前回、令和5年7月まで、23回の委員会を開催し、各委員の皆様から貴重な御意見を賜って参りました。

本日は、奈良県営競輪の令和5年度の決算状況及び令和6年度の取組について御審議いただくため、お集まりいただきました。

なお、本日、西川委員は御都合により欠席の連絡をいただいております。

委員5名のうち、本日は4名の御出席をいただいておりますので、奈良県営競輪あり方検討委員会規則第6条第2項で定める、会議を開くための定足数である委員の半数以上の出席を満たしておりますので、本日の会議が有効に成立することを御報告申し上げます。

それでは、僭越ながら事務局より、本日御出席の委員の皆様を紹介させていただきます。

本日WEBにてご出席いただいております、委員長 早稲田大学スポーツ科学学術院 院長 松岡宏高様でございます。

<松岡委員長>

松岡でございます。本日はよろしくお願いたします。

<吉村課長>

iiful 株式会社 代表取締役 中小企業診断士 石川聖子様でございます。

<石川委員>

石川です。どうぞよろしくお願いたします。

<吉村課長>

おおみね法律事務所 弁護士 石黒良彦様でございます。

<石黒委員>

石黒です。どうかよろしくお願いたします。

<吉村課長>

奈良県サイクリング協会 副会長 上垣憲一様でございます。

<上垣委員>

上垣でございます。よろしくお願いたします。

<吉村課長>

続きまして、出席しております奈良県職員を紹介いたします。

奈良県産業部長の森本でございます。

<森本部長>

森本でございます。よろしくお願いたします。

<吉村課長>

産業部次長の奈良でございます。

<奈良次長>

奈良でございます。よろしく願いいたします。

<吉村課長>

競輪場長の山崎でございます。

<山崎場長>

山崎でございます。よろしく願いいたします。

<吉村課長>

競輪場次長の池田でございます。

<池田次長>

池田でございます。よろしく願いいたします。

<吉村課長>

経営支援課課長補佐の間林でございます。

<間林課長補佐>

間林でございます。よろしく願いいたします。

<吉村課長>

その他の職員につきましては省略させていただきます。

それでは、まず、産業部長の森本より、御挨拶を申し上げます。

<森本部長>

皆様、改めまして産業部長の森本でございます。

本日は、第24回奈良県営競輪あり方検討委員会に御出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日は、令和5年度の決算状況及び令和6年度の取組について御説明させていただき、皆様からの意見を賜りたいと考えております。

コロナ禍では売り上げが好調で、令和5年度のコロナ禍が明けた後も引き続き同じような傾向であり、インターネット発売額が順調に推移している状況になっております。

平成25年に赤字から黒字に転換して以降、10年連続で黒字を維持し続けているところでございます。

本日の委員会では、老朽化した施設への対応、地域に親しまれる競輪場、健全に競輪を楽しむ取組等、競輪事業として取り組むべき課題につきまして、様々な忌憚ない御意見を賜りたいと考えております。

本日はどうかよろしくお願い申し上げます。

<吉村課長>

議事に入ります前に会議の公開についてです。傍聴を希望される方がいらっしゃいますので御了承をお願いいたします。なお、傍聴される方のお手元に、傍聴要領を配布しております。記載された注意事項に御留意いただき、議事の進行を妨げないように、御協力のほどよろしくお願いいたします。

では松岡委員長、議事進行方よろしくお願いいたします。

<松岡委員長>

皆様よろしくお願いいたします。それでは本日の次第に沿いまして進めてまいりたいと思います。まず、議題Ⅰ「令和5年度の決算状況について」、資料1ページから7ページまで、事務局より御説明をお願いいたします。

<間林課長補佐>

経営支援課の間林です。着座にて御説明させていただきます。まず、資料1ページから7ページまでを御説明いたします。

1ページをご覧ください。前回までの議事内容についてのおさらいです。令和4年度以降の競輪事業の方向性といたしましては、令和3年7月13日に開催させていただいた第21回で、当委員会から、令和4年度以降の競輪事業についての方向性をいただきました。

内容といたしましては、「平成25年度以降、黒字で推移しており、現在の経営状況及び施設整備を含めた今後の収支見込みでは、令和4年度以降も継続可能な状況である」とする一方、「新型コロナウイルス感染症の影響について、今後の開催状況及び収支変動等を注視する必要がある」ため、「令和4年度から令和8年度までの5年間は引き続き競輪事業を実施するとともに、経営安定化を図る期間とする」というものでした。

この方向性を受け、取組方針のとおり、老朽化した施設への対応、地域に親しまれる競輪場、健全に競輪を楽しむ取組の3つの事項に取り組むこととされました。

老朽化した施設への対応では、必要性の少ない施設の除却、競輪事業開催に必要な施設の改修等の計画的な実施。

地域に親しまれる競輪場では、人々の交流の場としての既存施設の活用方法の検討や、様々な方がいつでも気軽に集える場としての活用方法の検討、レース以外にも楽しめる奈

良の新たな観光スポットを目指し、競輪場を核としたにぎわいづくりの創出に向けた研究。

健全に競輪を楽しむ取組では、健全に楽しめる競輪をPRするイベントの充実やノベルティグッズの配布等ファン層の拡大を図る手法の検討、競輪の適度な楽しみ方や未成年者による投票券の購入を禁止する啓発活動の検討、ギャンブル等依存症問題に関する関心と理解を深める取組の検討等に取り組むこととされました。

これらの取組の内容につきましては、8ページからの「令和6年度の取組について」の中で、御説明させていただきます。

<池田次長>

競輪場の池田でございます。

続きまして、令和5年度の競輪特会の決算状況についての御説明です。ただし、令和5年度決算は、9月県議会後の公表に向けて作成中であり、資料の金額は集計中のものであることを、お含みおきくださいますようお願い申し上げます。着座にて御説明させていただきます。

2ページをご覧ください。(2) 令和5年度の決算状況①奈良競輪特会決算です。

一番上の赤字で記載する部分、令和5年度決算の概況といたしましては、引き続きインターネット投票が好調に推移し、一般会計に4億40百万円を繰り出したうえで、1億50百万円の黒字を確保いたしました。

次に、歳入歳出の表をご覧ください。黄色の行の部分、令和5年度の車券発売金合計は284億36百万円で、令和4年度の発売金額271億01百万円と比較して105%となりました。車券発売金合計にその他収入、繰入金(基金取崩)、繰越金を加えた歳入合計は、292億19百万円で、令和4年度の歳入合計277億76百万円に比べ105%でした。

その下、歳出の表の3行目、競輪施設整備基金積立金が10億87百万円、次の行、一般会計への繰出金が4億40百万円で、これらを含めた令和5年度の歳出合計は、オレンジ色の行290億68百万円で、令和4年度の歳出合計276億26百万円に比べ105%となりました。歳入合計から歳出合計を差し引いた約1億50百万円、これは令和4年度とほぼ同額ですが、こちらを次年度に繰越をいたしました。競輪施設整備基金積立金につきましては、令和4年度の残高が37億23百万円で、取崩と新規積立の結果、令和5年度の残高は45億98百万円となりました。

次の表は、車券発売金の内訳を、レースのグレード毎に集計しております。一番上のGⅢにつきましては、緑色の行の部分になりますが、令和5年度は合計65億58百万円で、令和4年度の56億61百万円に比べ約116%でした。詳細は次のページで御説明いたします。以下、FⅠ、FⅡ、FⅡミッドナイトの発売金額になりますが、右端の令和5年度と4年度の比の列、R5/R4比という列をご覧ください。グレード毎に、窓口投票、インターネット投票、合計の順に記載しております。FⅠ、FⅡはいずれも、インターネット投票では全て前年度比が100%を上回っております。令和5年度の車券発売金額は、引き続き

き、インターネット投票による車券発売が好調であり、令和4年度とほぼ同様の水準となっております。

3ページをご覧ください。(2) ②記念競輪「春日賞争覇戦」の実績を御報告いたします。

一番上の青枠の部分、GⅢ春日賞につきましては、令和元年度は新型コロナウイルス感染症の影響がありましたが、令和2年度以降は通常開催となり、令和5年度は、令和4年度より約9億円増の約65億6千万円の車券発売となりました。売り上げ額が60億円を超えたのは、平成27年度以来8年ぶりになります。

その下の表をご覧ください。令和3年度から令和5年度までの各年度の実績です。令和4年度との比較で御説明いたします。上から3段目の本場入場者数は、令和4年度は8,579人でしたが、令和5年度は8,946人と367人の増加となりました。

売り上げにつきましては、令和5年度が65億57百万円となり、令和4年度の56億61百万円に比べ、約9億円の増加となりました。内訳を見ると、上から本場、場外、CTC（電話投票等）、民間ポータル及びチャリロト重勝式の全てにおきまして、令和4年度より増加しており、特に民間ポータルによる売り上げ額の伸びが大きく、インターネット発売が引き続き好調であることが分かります。

ページ中ほどのグラフは、左が、春日賞の年度別売り上げ額の推移です。なお、令和元年度は、感染症対策により無観客開催であったことや、場内・場外車券発売が中止されたことにより、売り上げ額が低くなっております。その右のグラフは、GⅢの全国売り上げ平均額の推移です。GⅢは、令和2年度までは全国的に減少傾向となっておりますが、令和3年度以降は増加しており、奈良県も大きな流れとしては同様の傾向にあります。

下のグラフは、令和5年度の全国競輪場別のGⅢ売り上げ状況です。赤が奈良県開催になり、全国平均52億90百万円を大きく上回る売り上げとなっております。

4ページをご覧ください。(2) ③1日平均車券発売金額の状況（R元～R4との比較）について、御説明いたします。

茶色枠の令和5年度の売り上げ状況は、インターネット投票が引き続き好調であり、令和5年度も車券発売金は堅調に推移しました。

その下の表は、1日平均の車券発売金額を、レースのグレード毎、発売方法毎に算出したものです。右側の赤枠で囲んだ部分が令和5年度の実績です。表の一番上、令和5年度のGⅢの1日平均発売金額合計は16億39百万円です。FⅠナイターは4億22百万円、FⅠミッドナイトは5億28百万円、FⅡモーニングは2億57百万円、FⅡミッドナイトは4億13百万円で、全レースの1日平均発売金額は4億63百万円となりました。右端の列は、発売金額の前年度比です。合計では、窓口投票が減少した一方、インターネット投票は増加しており、窓口とインターネットの合計は、令和4年度とほぼ同様の水準となっております。

左下のグラフは、全てのグレードの合計をお示ししております。特殊要因のあった令和元年度を除くと、1日平均発売金額は増加傾向にあり、特にインターネット投票の1日平均金

額が増加しております。

右下のグラフは、車券発売金の構成比を示したものです。インターネット投票は、年々増加し、全体の85%を超えております。

<間林課長補佐>

5ページをご覧ください。(2)④車券発売金額の状況(全国との比較)です。

奈良競輪の傾向といたしまして、全国平均に比べて、インターネット投票の割合が高いという点が挙げられます。理由の一つといたしましては、奈良競輪は全日程のうちミッドナイトの開催割合が高く、ミッドナイトは一部の場外車券売場を除いてインターネット投票のみであるためと考えております。

ミッドナイトの開催日数の割合は、全国の28.5%に対し、奈良は39.3%です。これは、地元の御理解もありまして、自場でミッドナイトが開催できるように照明設備等を整えており、他場よりもミッドナイトの開催日数を増やすことが可能となったためと考えております。しかし、インターネット発売に特化した収益率の高いミッドナイト競輪は全国他場でも注目されており、照明設備を整えてミッドナイト競輪を開催する競輪場も増えてきている状況です。これまでは、各場8節を上限に開催できておりましたが、1日に2場又は3場で開催したとしても、希望する節数を競輪場全てで開催することは難しくなってきているというのが実情です。令和5年度は、全国競輪施行者協議会と調整し、奈良競輪では計8節を開催いたしました。

ページ中段をご覧ください。奈良県の1日平均車券発売金額の合計は4億63百万円で、全国平均の4億36百万円より大きくなっております。奈良のインターネット投票の発売金額は、全国平均を約48百万円上回る4億3百万円となっております。構成比につきましても、全国平均の81.4%を5.5%上回る86.9%となっております。

6ページをご覧ください。御参考として、令和5年度の各公営競技の発売状況をお示ししております。上段が競輪、中段がオートレースとボートレース、下段が地方競馬と中央競馬の、令和元年度から令和5年度の発売状況をグラフにしたものです。いずれのグラフも、折れ線が発売金額の推移で、棒グラフが窓口投票とインターネット投票の構成比の推移となります。

これらのグラフから、令和5年度におきましても、引き続き全ての公営競技で売り上げが増加していること、また中央競馬を除き、ほとんどの公営競技で売り上げ全体に占めるインターネット投票の割合が増加しており、かつ売り上げの殆どを占めていることが見て取れます。

7ページをご覧ください。(3)令和6年度の奈良競輪開催状況です。現時点での開催済みの7開催についての結果を御報告させていただきます。

まず、GⅢの1レースについてです。今年度は、例年2月に開催するGⅢ春日賞の他に、枠外で6月に大阪・関西万博協賛競輪を開催しました。車券発売金額につきましては、同期

間に函館でも同様のGⅢナイターが開催されたこともあり、令和5年度の全国万博協賛の平均からは下回る結果となりました。

次に、FⅠナイターの3レースについてです。4月、5月、6～7月に開催し、3レースの車券売り上げの平均金額は約15億60百万円となり、令和4年度より約23%の増加となっております。

次に、FⅡモーニングの1レースについてです。5月に開催し、車券売り上げは概ね令和4年度と同程度の約7億70百万円となりました。

最後に、FⅡミッドナイトの2レースについてです。4月と6月に開催し、2レースともに令和4年度の平均を下回る結果となりました。2レースの車券売り上げの平均金額は約9億60百万円となり、令和4年度より約23%の減少となっております。

下の青い表は令和5年度と令和6年度の開催状況です。令和6年度は、合計行に記載のとおり、全てのグレードを合わせて65日の開催を計画しております。そのうち、現在まで22日を計画どおり実施いたしました。今後43日を実施する予定です。

以上で、7ページまでの御説明を終わります。御審議よろしく願いいたします。

<松岡委員長>

御説明ありがとうございました。奈良競輪に限らず、公営競技が全国的に順調なようですね。奈良競輪につきまして、令和4年度より売り上げが伸びているという報告もありましたが、委員の皆様、御質問や御意見はありませんでしょうか。

<上垣委員>

GⅢの売り上げ状況につきまして、全国的に見て平均値を上回っているときと、下回っているときがありますが、そのことにつきましてお教えいただきたいと思っております。

<山崎場長>

3ページをご覧ください。こちらで全国のGⅢの状況を御確認いただいたかと思っております。この中で、GⅢにつきましては、様々な種類のレースがあります。特別競輪となる大阪・関西万博協賛競輪や施設整備等協賛競輪といった、記念競輪とは違う形で開催させていただくレースがあります。こういったGⅢにつきましては、売り上げがやや低い傾向です。また、令和5年度では、例えば8月に開催された和歌山競輪場と同日程に京王閣競輪場でナイターのGⅢが開催されたことで、売り上げが低くなりました。奈良競輪においても、今年6月に開催した大阪・関西万博協賛競輪では、同日程に函館でナイターのGⅢが開催され、売り上げが平均より少ない結果となりました。そういった要因から、表で見ると一部平均を下回っているレースも含まれるという点を御理解いただきたく思います。記念競輪につきましては、順調に売り上げが伸びていると考えております。

<上垣委員>

分かりました。ありがとうございました。

<石川委員>

御説明ありがとうございました。決算状況の報告ということで、売り上げが好調というのは強く伝わってきたところです。3ページのところで、本場の入場者数も増えているとのことですが、増えている入場者の属性や新規の入場者であるか等は把握できるのでしょうか。

<山崎場長>

春日賞の入場者の属性につきましては、全ての把握は出来ておりません。春日賞につきましては、競輪ファン以外にも来ていただけるよう、イベントを開催し、家族連れの方々も楽しめる取組をし、競輪場として親しんでいただける場を設けているところです。一般のファンの方に車券を買っていただくこととは別に、そうでない方にも競輪のレースを一度見ていただいて、関心を持っていただけたらと考えており、入場者を増やしていきたいという思いがあります。

<石川委員>

ということは、車券を購入した人の数ではなく、あくまでも入場者数ということですか。

<山崎場長>

その通りです。

<石川委員>

前向きな取組で結果的に入場者が増えているのは素晴らしいことですが、一方で今後手立てを打っていくためのために、入場者の属性が分かるような手段を持つべきではないでしょうか。

<山崎場長>

その点につきましては、他から御意見も頂戴しておりまして、独自のアンケート調査や、JKAの「競輪場来場者アンケート調査」等を通じて状況を把握していきたいと考えます。

<石川委員>

安心しながら数字は拝見しておりますが、今後の方針を具体的に展開していく中では、非常に大事な情報と考えますので、是非その取組は推進いただきたいと思うところです。

そしてもう一点お伺いしたいのですが、1ページに記載されているSDGsにつきましては、項目出しとしてSDGsに該当させているところは理解出来ますが、掲げているだけで

は厳しい時代ですので、具体的にアクションや浸透の動きを何かされているのかお教えいただけますでしょうか。

<山崎場長>

SDGsの取組につきましては、方針を掲げていますが、具体的にSDGsの各項目の中で何をどう実施したのかは、今後お示しさせていただければと考えております。

<石川委員>

おそらく前回の当委員会においても、同様の回答をされているのではないのでしょうか。昨今の風潮もあり、掲げているだけで実行していないとSDGsウォッシュと言われかねません。内容としては素晴らしい項目であると思いますので、早期に具体的に取り組んでいただければと考えております。

<山崎場長>

ありがとうございます。おっしゃっていただいた内容は非常に重要ですので、前回の当委員会では、SDGsにつきまして、ホームページへの掲載という話をさせていただいておりましたが、今後の取組を具体的に考えないといけないと考えており、実施するイベントがどの項目に該当するか等、SDGsの達成状況を皆様に御理解いただけるような方針で進めたいと考えております。

<石川委員>

是非よろしく願いいたします。

<松岡委員長>

石川委員の御意見は2点とも重要であり、私がお伺いしていて共通しているのは、やりっぱなしではなくて、確認をして次に活かしていくことが大切ということです。来場者が増えることは本来良いことであると思いますが、家族向けの取組をして家族が増えたのかを確認し、増えなければ違う取組をしないといけないと考えます。そういう確認をするために来場者がどのような人なのかを確認することは必要です。

SDGsにつきましても、出来ているのか出来ていないのかを確認し、出来ていないのであれば、目標を変えないといけないかもしれません。そういったところにも力を入れていただきたいと思います。

そういう点では、2ページに決算をお示しいただいておりますが、令和5年度、令和4年度、それ以前と順調に推移しており、余裕が出てきていると思います。今のスタッフだけで実施することは厳しいと思いますが、調査の実施やSDGsの対策に予算を充てるくらいの余裕は出てきていると思いますので、御検討いただければ良いと思います。

では、他によろしいでしょうか。次に議題Ⅱ「令和6年度を取組について」、資料8ページから11ページと、参考資料について、事務局より御説明をお願いいたします。

<間林課長補佐>

経営支援課の間林が引き続き御説明いたします。

8ページをご覧ください。(4) 令和6年度を取組について①老朽化した施設への対応です。

当委員会でお示しいただいた方向性を踏まえ、令和6年度につきましては、競輪事業継続に必要な整備を行っていきたくと考えております。主な内容といたしまして、老朽化した高圧ケーブル等の更新工事、無停電電源装置室内の空調機の更新工事、選手宿舎のトイレ洋式化改修工事の実施を予定しております。

9ページをご覧ください。(4) ②地域に親しまれる競輪場です。

令和6年度の主なイベントとして、子ども食堂、サマーフェスティバル、奈良スポフェス、キックバイク大会等を行う予定です。このうち、子ども食堂につきましては、来週末7月20日に開催予定です。また、秋篠町盆踊り会場としての利用や、部活動の練習場としても引き続き活用いただけたらと考えております。

10ページをご覧ください。引き続き(4) ②地域に親しまれる競輪場です。

令和5年度に開催した主なイベントについて記載しております。来場者をはじめ、地域住民や自転車に関心を寄せる人々が交流し、楽しめる競輪場を目指しまして、様々なイベントを開催いたしました。普段競輪場にお越しにならない方や、家族連れの方にご来場いただき、御好評いただいたところです。

11ページをご覧ください。(4) ③健全に競輪を楽しむ取組です。

健全に競輪を楽しんでいただけるよう未成年者の車券の購入禁止、ギャンブル依存症につきまして、奈良けいりん公式ホームページへの掲載や場内各所でのポスター掲示により、注意喚起を行っております。また、県精神保健福祉センターのリーフレットを場内に配架し、依存症相談に関する周知も行っているところです。今年度は奈良県が国の奈良県ギャンブル等依存症対策推進会議に出席を予定しております。

本編は以上で、12ページから13ページは参考資料となります。

12ページは、参考資料1 令和6年度の本場開催日程表です。上半期分の開催日程となります。下期につきましては、現在調整中です。

13ページは、参考資料2 奈良競輪場のこれまでの取組と収支差引の推移です。単年度赤字となりました平成21年度以降における競輪特会決算の収支差引の推移を示す折れ線グラフと、当委員会が設置されました平成24年度以降、委員会で御議論をいただきながら実施してきた県の取組等、そして、一般会計への繰り出し及び施設整備基金の積立状況を示す棒グラフによりまして、これまでの経緯を表したものです。主な取組としては、平成26年度の包括外部委託の導入、平成27年度のミッドナイト初開催、令和元年度のFⅡナイト

一初開催等が挙げられます。

資料の御説明は以上です。

なお、本日御欠席の西川委員からコメントをいただいておりますので事務局からご紹介いたします。西川委員からは、「コロナ禍の影響や民間ポータルサイトの拡大によって増加する売上げを継続させていくためには、施行者の努力が不可欠である。今後、独自性のある魅力向上に資する取組や、女性・こどもが来場しやすい環境作りが重要と考える。」とのコメントをいただいております。

引き続き、御審議よろしく願いいたします。

<松岡委員長>

ありがとうございました。委員の皆様から、御質問、御意見はありませんでしょうか。

<石川委員>

御説明ありがとうございました。先ほどの御説明にありました、8ページに記載の施設への対応につきまして、令和5年度の結果をお教えいただけますでしょうか。

<山崎場長>

令和5年度の工事状況につきまして、前回の当委員会で御説明させていただきました第一払戻所、東ファン休憩所及び西ファン休憩所の除却工事は完了しております。多目的ホールの西側に第一払戻所及び西ファン休憩所が立地していましたが、解体して撤去済みです。また、東側には東ファン休憩所が立地していましたが、こちらも撤去済みです。作業員室及び倉庫等につきましては、除却工事設計まで完了しております。多目的ホールにおける空調設備についても設計まで完了しております。

<石川委員>

承知しました。管理スペースに関しては、効率性や老朽化対応という観点で影響は少ないと思いますが、来場者の方が利用する施設を除却したことについて、来場者の動線を含み、影響や評価はありましたか。

<山崎場長>

建物を除却した影響につきまして、元々は第一払戻所、東ファン休憩所及び西ファン休憩所の建物がありましたが、現在来場者数が大変減ってきている状況もあり、お客様のニーズがなくなってきた現状があります。また、これらの建物につきましては、耐震性能がなく建物内に入れられないという状況でしたので、除却して広場として利用できるようにしております。

<石川委員>

承知しました。ありがとうございます。

<上垣委員>

9ページでバンク体験イベントとあり、その他に奈良競輪のホームページにて自転車愛好会についてという募集をされていましたが、実際にどのくらい参加者がいたのかお教えいただきたいと思います。

<山崎場長>

資料には奈良競輪場主催のイベントを記載させていただいております。これとは別に自転車愛好会の独自の取組として、走行会が2、3ヶ月に1回程度と頻繁に行われております。当日参加者がどのくらいかの把握は出来ておりませんが、一定の参加者がおり、楽しまれているとお伺いしております。

<上垣委員>

ありがとうございます。

私どもが実施するサイクリングの大会におきまして、コロナ禍で色々とWEBに変更して実施しましたが、参加者が激減しました。WEBなら安全であろうとやったことが全部裏目に出ました。競輪におきましては、現在インターネット発売が好調ということですが、インターネット発売がいつまで通用するのかなと思います。実際に競輪場に行くとどのくらい魅力があるか、自転車の愛好家がどれくらい集まるのかが、奈良競輪のホームページを拝見して見えてこなかったのも、インターネット頼りで大丈夫かという心配により、お伺いしたところです。

<山崎場長>

イベントにつきましては、WEB上での案内がメインになっております。できるだけ皆様に見ていただけるよう、早めに周知させていただきたいと考えております。また、新聞等の媒体にも周知の依頼をかけており、そのような媒体に掲載いただけたら、ある程度来場する方が増えてくるのではないかと考えております。

<上垣委員>

ありがとうございます。

<松岡委員長>

他にはございませんでしょうか。

それでは、議題Ⅲ「その他」について、何か奈良競輪に関する事で、御質問、御意見等

はありませんでしょうか。

<石川委員>

昨年を含めてここ数年来は、コロナであるというところを気にしながら、数字や状況を見つけていたところでは、昨年5月にコロナが線引きされましたが、令和5年度の決算状況の数字としては、それまでの傾向を更に上回るような状況であり、非常に好調な状況を維持しているということに、今年も改めて強く感じたところです。

この当委員会の名前になっている「あり方」という部分で、検討し続けている中で、慎重さも大事だと思いますが、一方で平成25年から10年間非常に順調な推移を維持し続けています。このような状況を鑑みますと、ある程度このタイミングで、今後の方向性についての結論というか、次のステージに進む一歩というのを検討するタイミングに来ているのではないかと思います。今年度の資料や数字を見て、そのあたりを強く感じたところです。議題「その他」で発言するかは迷いながらですが、そのように感じたところです。

10年間の好調な部分を、後ろ向きではなく前向きに進めていけるように、方向性の結論をしっかりと出すという検討を入れてもらえればと思います。

<松岡委員長>

石川委員、貴重な御意見ありがとうございました。確か前回か前々回の当委員会で、参考資料2の推移を見ながら、委員会の立ち上がったときと状況が変わってきているというお話をした記憶があります。

私も当委員会の最初から関わらせていただいておりますが、平成24年度の第1回までは赤字である状況で、存続するのかどうかを検討する話をしており、ショッピングモールを作るか等の話も出ていました。

今、石川委員がおっしゃったことに私も便乗すると、私の中ではあり方を検討する段階はもう十分過ぎてきている気はしていました。前回までのおさらいをしていると、令和4年度から令和8年度までの5年間をどうするかという話をしていましたが、石川委員の御発言の意図としては、もうその先の提案をして良いのではないかとというように御理解させていただいてよろしいでしょうか。

<石川委員>

御確認いただきましてありがとうございます。令和8年度までということで、令和6年度、令和7年度、令和8年度と慎重に見るという動き方もあるのかもしれませんが、昨今の時代の流れの早さや、状況の変化を鑑みますと、そこを待っているほうが、逆にリスクがあったり、チャンスを捉え損ねたりするのではないかと感じまして、先ほどの発言をさせていただきました。

<松岡委員長>

ありがとうございます。次のステージに向けて動くような方向性を考える時期ではないかという点で、他の委員の皆様いかがでしょうか。

<上垣委員>

当委員会というのは、ロングランで構想されるものですが、この現代社会におきまして、高齢化社会や若者の体力不足で競輪離れが起こってくるのではないかと思います。身体も使わない、汗も流さない、そういう喜びを持たない世の中になってくるのではないかと思います。私は汗をかくのが大好きですが、顔を見ながら汗をかいて喜び合うスポーツが消されていくのではないかと思います。私の錯覚かもしれませんが、そのような危惧をしております、そういった方向でも考えていかなければならないと思います。

ボートも競馬も燃料や動物愛護の観点から見て、競輪以外の公営競技はSDGsの観点で反していると思います。以前NHKで中央競馬が取り上げられているのを見て正直残念であると思いました。今後そういうところも表立っていくのではないかと危惧しております。そういう点においても、競輪の方向性の方針は決まってくるのではないかと思います。

<松岡委員長>

ありがとうございます。私なりの解釈で整理させていただきますと、当委員会は、元々存続するか廃止するかというところから始まっていますが、今のような御意見も、存続させること前提でその活用の仕方をどうするかという話であると思います。上垣委員がおっしゃったことは、単なるギャンブルとしてお金を賭けてもらえれば良いという訳ではないということだと思います。競輪場を活用して、県民や県民以外が競輪場に来て自転車に乗るような活動をするとか、競輪場をハブに周遊するとか等の仕組みを作るような議論も出てくると思います。それはもう当委員会ではなく、どのようにこの施設を運営していくのか、マネジメントしていくのか、人が集まる場所にするかということなので、先ほどの石川委員の御発言にもそのようなことが含まれているかと思いますが、次の段階を考えるようなことをしても良いのではないかと私も考えておりますし、理解しております。

時間も過ぎていますが、令和8年度までは存続ということで、当委員会も令和8年度までずっと順調という報告を受け続けて、委員がそれを確認するという形で終わるのではなく、その先どうするかというところにシフトするのは当委員会として、間違った方向ではないと言えるのか、あるいは、その点についても別途検討した上で、次の委員会の議題としていくほうが良いか事務局にお伺いしたいと思います。

例えば、そういう議論をするにしても、事務局の方でどのようなお考えなのかであったり、長期的な収支の見込みを出していただいたりして、議論できればと個人的に思いますが、そのような方向で進めても良いのかどうかお教えいただければと思います。

<吉村課長>

松岡委員長ありがとうございます。経営支援課長の吉村です。

ここ最近の当委員会では、直近の決算状況や今年度の事業報告に留まっているところがありました。確かに次のステージというものも御議論いただく中で、今後の中長期的なシミュレーションの資料を作らせていただいて、その資料を基に委員の皆様にも再度、御議論いただくような場を設けさせていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

<松岡委員長>

当委員会として、そのような議論をしても構わないということですか。

<吉村課長>

はい。問題ありません。

<松岡委員長>

では、そういう議論が出来るような資料を、次回もしくは次々回に向けて準備していただければと思います。お願いしてよろしいでしょうか。

<吉村課長>

分かりました。そのようにさせていただきます。

<松岡委員長>

石川委員、貴重な御発言ありがとうございました。

時間を延長しているのですが、議題「その他」で他に意見がないようであれば、これにて本日の全ての議事を終了いたします。それでは、進行を事務局にお返しいたします。

<吉村課長>

松岡委員長ありがとうございます。

それでは、最後に部長の森本より閉会の御挨拶をさせていただきます。

<森本部長>

本日は、本当に熱心な議論をいただき、また多くの御意見を賜りまして、誠にありがとうございました。本日の御議論を踏まえながら、先ほど長期的なシミュレーションという話がありましたので、次回の第25回に向けて作成して参りたいと思います。各委員の皆様には、公私とも大変お忙しいところではありますが、今後とも引き続き御協力を賜りたいと思います。本日は、誠にありがとうございました。

<吉村課長>

これをもちまして、第24回奈良県営競輪あり方検討委員会を閉会させていただきます。
皆様ありがとうございました。

(19:05終了)